

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	イケン・オエンの共通性と差異性 : 岡山県内5地点の老人層の場合
Author(s)	十河, 直樹
Citation	ニダバ , 28 : 161 - 168
Issue Date	1999-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048057
Right	
Relation	



イケン・オエンの共通性と差異性

— 岡山県内5地点の老人層の場合 —

十 河 直 樹

はじめに

1. 広域方言と辺境方言

方言の中にも関西域で理解できる広域方言もあれば、岡山県内でも南部だけで使用頻度の高い辺境方言もある。「ポッカー」は、岡山県以外の四国地方でも広島地方でも、使う人も聞いて理解できる広域方言である。同類語の「イカイ」は『何と』首をかしげる。「イカイ」は訛って「イキヤー」と使われるが『知らない』『使わない』とも言う。辺境方言であろうか。すなわち両語とも、意味の点では、物量が膨大、ものすごい、びっくりした、というような意味として用いられている。

つまり、微妙に意味や、使い分け、広がり、使う用途も差異がありそうだ。

2. 方言境界線

ただ、方言には、明確な使用範囲の地域性がある。そこには境界がある。つまり、どちらかが優勢で一方が高頻度で、位相範囲も若年から老年層に至る範囲も広く、勢力争いがあり融合域もある。その形成は時代や社会変動によって常に変化する。

3. 方言境界線と諸条件

従来の方言境界線の意味は、①自然条件と②社会条件の二者に分け、③用語についての勢力分布状態に傾注していた。方言は地域の生活語で、その事象に代行できる用語を探り、似たこと、似たものを当て便宜上に用いた用語が多い。その用語が使いやすいれば特に高頻度となり、その用語に多様の意味も含ませる一語多義を生成してきたように思う。④これはこの地域の生活史＝職業＝生活態度が要因で、そこに利弁用語＝使いやすい慣れた用語＝方言を容易に捨て切れないものとなる。まるで、自分の常用している万年筆のようにである。

では、広域方言と言える「イケン・オエン」の世界はどうであろう。

イケン・オエンの調査概要

1. 調査地点・調査対象者

	氏名	性別	年齢	職業	家族背景
① 岡山市	高島隆一	男	82	造園業	妻子5人
② 津山市	春名健治	男	79	石工	妻と2人
③ 新見市	西村勢津子	女	65	農業	主人と2人
④ 笠岡市	松田道雄	男	77	漁師	妻子4人
⑤ 下津井	那須 彬	男	83	漁師、仕出	主人と2人

2. 臨地調査（設問方式），設問事項

2-1 臨地調査（設問方式）

現地に臨地して、設問によって問答式で解答を得た。

2-2 設問事項

a 酒ばかり飲んででは（健康になれないので） <u>いけません</u> 。	イケン	オエン
b-a. そこは危険な場所だから行っては <u>いけません</u> 。	イケン	オエン
- b. そのみかんは腐っているので食べては <u>いけません</u> 。	イケン	オエン
c 今から行っても <u>無理</u> （時間には間に合わない）だろう。	イケン	オエン
d 9時までには家に帰って来なければ <u>いけません</u> 。	イケン	オエン
e 牛乳は沸かし過ぎると <u>いけません</u> 。	イケン	オエン
f 雨が降ると <u>いけない</u> ので傘を持って行きなさい。	イケン	オエン
g 今日は暑くて <u>非常に不快だ</u> 。	イケン	オエン
h もうこれ以上やっても無駄だ。	イケン	オエン
i その牛乳はもう <u>だめだ</u> （腐っている）。	イケン	オエン
j あなたがよく注意していなかったのが <u>いけないんだ</u> 。	イケン	オエン
k だれとも話をせずに（1人淋しく）生きていけますか。	イケン	オエン
l 雨に濡れたまま放っておくと、風邪を引いて <u>いけません</u> 。	イケン	オエン
m 明日は集会に行けますか。	イケン	オエン
n あなたはこの荷物を背負えますか。	イケン	オエン
o いたずらばかりする猫は手に負えますか。	イケン	オエン

3. 語形

3-1 語形

イケン… ア行・下一段活用の動詞（自動詞）イケルに打消の助動詞「ン」が接続したものの。

オエン… ア行・下一段活用の動詞（自動詞）オエルに打消の助動詞「ン」が接続したものの。

3-2 アクセント

~~~~  
イケン… イケン（平板型）

~~~~  
オエン… オエン（平板型）

3-3 活用

	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	進行形	否定形
イケル	ケ	ケ	ケル ケラー	ケル	ケリャー ケマー	○	ン(デー ン(ドー	ケド
オエル	エ	エ	エル エラー	エル	エリャー エマー	○	ン(デー ン(ドー	ケド
～ン	○	○	ン ナー	ン	ニャー マーカ	○	ン(ヨナ ン(デー ン(カ～	ケド ケド ケド ケーナ

3-4 用例

（そんなものを食べては～）イケンガ、オエンガ

イケリャーセンガ、オエリャーセンガ

イケンド（ー、オエンド（ー

イケンデ（ー、オエンデ（ー

イケンゾ、オエンゾ

語尾に「ガ」「ド（ー」「デ（ー」「ゾ」の濁音の終助詞を付加する形態があるのと、

「～リャーセンガ」(～てはいけなが) = 半疑問(反語)形の二形態がある。前者の場合は、明確な禁止を表現した形態で、後者の場合は、自分自身に自信のない、あやふや、不安定な心理状態の時に用いる。

4. 語史

4-1 語源

「イケン」・「オエン」の語源は、いまだ明確にされてはいない。二説あって①私的見解を述べると、「イケン」の元の語形の「イケル」は、「行く」の可能動詞「行ける」であり、「オエン」の元の形態の「オエル」は、「負う」の可能動詞「負える」であると推測している。②他の一説は、音形に注目して、「イケル」「オエル」の否定形は「イケン」「オエン」で、岡山方言の音韻法則の一パターンである、/ai/は/n/と撥音形をとることから「イケナイ」を「イケン」・「おえない」を「オエン」という形態をとったものと考えられる。

いける：イケル=イケナイ：イケン おえる：オエル=オエナイ：オエン
 /ikeru:/ikeru/=/ikenai:/iken/ /oeru:/oeru/=/oenai:/oen/

一例

食べる：タベル=タベナイ：タベン 走る：ハシル=ハシラナイ：ハシラン

4-2 語史

「イケン」は「イク」の可能動詞の「行ける」に否定形「いけない」(連)の形態。「オエン」は「負う」の可能動詞「負える」に否定形「おえない」(連語)の形態と考えている。この用語はいつ頃から用いられた用語なのか。

い・く【行く・《往く》】(動)(万葉集の防人(サキリ)歌から見え、平安時代には「ゆく」と併存する)一①前に進む。ある方向・目的地に向かって進みを移動する。[万20・四三七四][竹取][日ボ]	いけない(連) (「行ける」の否定形) (禁止の意) … してはならない。②(非難の意)よくない。悪い。【鳩翁道話】③だめだ。
---	---

お・う【負う】(動)上に他のものに乗せる。しょう。おぶう。[万5・九〇五]	おえない【負えない】(連)手にあまる。どうしょうもない。【根南志具佐一】
---------------------------------------	--------------------------------------

これら文献上から、【いく・行く】や【おう・負う】は、平安時代に使用されているが「いけない」「負えない」は、江戸時代にいたって用いられていたことが分かる。このこ

とから、「いく」／「いかない」，「おう」／「おえない」の相対関係は、江戸時代に成立したと考えられる。

4-3 使用頻度及び範囲

3-1 使用頻度 「イケン」「オエン」は、岡山県内ではほぼ差異がないと考えられる。老若男女を問わない。「イケン」と呼称した部分に「オエン」を当てても、明瞭な岡山弁として差し支えはない。

例

『これを食べたらいけない』	「ケーオ タベトラ <u>イケン</u> 」
	「ケーオ クートラ <u>オエン</u> 」
『泣いてはいけません』	「ナイトラ <u>イケン</u> 」
	「ナイトラ <u>オエン</u> 」

3-2 使用（分布）範囲 「イケン」「オエン」の用いられている使用範囲は、岡山県の南域がやや頻度が高いように伺えられる。それは人口密度の高いせいもあるが、個人的には使い分けを意識、無意識に関わらず用いている。

5. 意味

5-1 岡山県人（岡山県に数十年以上在住した人）は、事柄の否定の表現に「イケン」「オエン」を頻繁に使う。しかも「イケン」「オエン」の意味は多岐にわたり、聞き手もそれで了解する（理解できる）。これは岡山方言の中にあって重宝であり、便利な方言の一つである。ただ、精査してみると、微妙な点で差異がある。

5-2 「イケン」「オエン」の共通点

- ①「悪い」の歪曲な言い方。よくないという意を表わす。
- ②何らかの理由や規則によって、～してはならない（禁止）、～であってはだめだなどの意を表わす。
- ③不可能だ。できないという意を表わす。
- ④何らかの理由、規則によって、～する必要・義務があるという意を表わす。
- ⑤（用言の終止形に「～といけん・おえん」の形で付いて）そのような事態、状態になると、そのものにとってよくないという意を表わす。
- ⑥（用言の終止形に「～といけん・おえんから」の形で付いて）そのような事態・状態が予測されるが、それに対する備えが必要だという話しての気持ちを表わす。
- ⑦（用言の連用形に「～て（で）いけん・おえん」の形で付いて）～という点が非常に

困る。不快であるという話し手の気持ちを表わす。

⑧しても甲斐のない、無益だという意を表わす。

⑨役に立たない、悪い状態だという意を表わす。

⑩悪い結果をもたらした行為に対して、それは非難されるべきである、という話し手の気持ちを表す。

⑪そのような事態・状態に絶える事ができないという話し手の気持ちを表す。

⑫そのような事態・状態になる危機を感じるという話し手の気持ちを表す。

5-3 「イケン」にのみ当てはまるもの

⑬行くことができないという意を表す。

5-4 「オエン」にのみ当てはまるもの

⑭責任を負うことができないという意を表す。

⑮荷物を背負うことができないという意を表す。

⑯（「手に負えん」、「始末に負えん」という形で）自分の力では、処理することができないという意を表す。

6. 調査

6-1 方法 臨地調査法 調査は私（十河）一人が、調査地域を吟味し、現地を臨地して被対象者と接見調査した。被対象者は、7名で、表示5名にした。

6-2 期間 （延べ）平成10年7月～8月中である。

6-3 調査の目的 「イケン」「オエン」は頻繁に使用する用語であるため、設問に率直に即応した語を優先した。実は、誘導、誘発、助言は一切しなかった。（予め被対象者には言わなかった）

6-4 調査データー 設問項目数16項目で、項目・個人上のデーター分析は、記下の表示する。

イケン=A オエン=B (0) = A B ほぼ同有

	岡	高島隆一	津	春名健治	新	西村勢津子	笠	松田道雄	下	那須 彬
		A B	A B		A B	A B	A B	A B		

①		0		0		0		0		0	
②	0		0	0	0	0	0	0		0	
③	0		0		0		0		0	0	
④		0		0			0			0	
⑤	0			0		0		0		0	
⑥	0		0		0		0	0	0		
⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑧	0	0		0	0	0	0	0	0	0	
⑨		0		0	0		0		0	0	
⑩	0		0			0		0		0	
⑪	0			0	0	0	0	0	0		
⑫	0	0	0		0			0		0	
⑬	0			0		0		0		0	
⑭		0	0	0	0	0	0	0		0	
⑮		0	0		0			0		0	
⑯	0		0	0	0			0		0	
	1	0 (3)	9	9 (2)	1 1	1 3 (2)	5	1 1 (2)	9	5 (1)	1 1

6-5 データー分析結果

5-1 地域別、個人的差異特徴 人の生活範囲は、半径2 kmと考えられていた。しかし、現代社会では*車社会*であるため、その倍の半径4 kmが生活範囲とってよからう。そういう目で、個人の生活態度をみると、下津井の那須彬(83)さんが特徴がある。「イケン」より「オエン」を圧倒的に使っている。下津井は、下津井という社会はその世界でのみ独立した社会をしてきた姿勢が分かる。

5-2 性別差異特徴 調査対象者5人の内、女性は新見市の西村節子さん1人で、岡山県西部中央域の方であるが、「イケン」13、「オエン」(5)で、下津井の那須さんとは対照的な結果となった。これは西村さんの性格もあろう。男性は協議や判断を迫られる事の多い社会生活の中では、女性で明確な判断の言語を持つ事は利発な方だ。

5-3 項目別差異特徴 16項目中、「イケン」=いけない。自分自身に危険を感じる時の用語としては(b-a, b-b, c, d, i, j, 1)の7項目、「オエン」=し

ないほうがよい。できれば避けた方がよい時の用語は（a, e, f, g, h, k, m, n, o）9項目である。また、「イケン」「オエン」の両語を使い、明確な使い分けをしない項目は（c, f, k, o）の4項目。

すなわち

「イケン」強調	両語併用	「オエン」強調
b-a, b-b, c, d, i, j, l	c, f, k, o	a, e, f, g, h, k, m, n, o
7	4	9

7. まとめ

7-1 調査の意味

方言といっても、その地方の特徴を浮き彫りにした俚言(りげん・ことば)がある。「チビル」(磨り減る)・「サバル」(捕まる。しがみつく)・「スケル」(台の上に置く)などである。「イケン」「オエン」は、そういった俚言ではなく「ボッケー」「イギー」などと同様、共通語の語形が基本にあって、それが音韻上の作用で訛る、融合化する現象を表わした語形である。しかし、語形だけではなく、語形が変化することによって、その意味の変化も相対、反比例した形で変化する。「カマワン」の元の語形は「構わない」であるが、岡山県内での「カマワン」の意味の内には、放っといてくれ、という意味として使われることが多い。

7-2 「イケン」「オエン」の将来

「イケン」「オエン」の意味の差異も、将来、時代や地域によって今後変化するであろう。マスコミ発展の昨今、中央での言葉の共通化と、似た現象時に用いる頻度や使い方の点で注意深く見つめていくことが大切である。